

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成28年12月28日 (2016.12.28)

【公開番号】特開2013-13731(P2013-13731A)

【公開日】平成25年1月24日 (2013.1.24)

【年通号数】公開・登録公報2013-004

【出願番号】特願2012-146630(P2012-146630)

【国際特許分類】

A 6 1 B 17/56 (2006.01)

A 6 1 B 17/14 (2006.01)

A 6 1 B 17/16 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/56

A 6 1 B 17/14

A 6 1 B 17/16

【誤訳訂正書】

【提出日】平成28年11月14日 (2016.11.14)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 9 0

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 9 0】

レバー解放機構 5 6 はまた、湾曲フレーム 2 8 0 の上先端 3 1 2 の上に位置付けられるボタン 3 1 0 を含む。例示的实施形態では、ボタン 3 1 0 は、単一部品を形成するように、上先端 3 1 2 の上に成形される。他の実施形態では、ボタン 3 1 0 が、湾曲フレーム 2 8 0 とは別に形成され、後で湾曲フレーム 2 8 0 に取り付けられてもよいことを理解されたい。ボタン 3 1 0 は、ユーザの指先を受容するように構成された成形上面 3 1 4 と、上面 3 1 4 の反対側に位置付けられた下面 3 1 6 とを含む。バネ 3 1 8 として例示的に具体化される付勢要素は、下面 3 1 6 とケーシング 2 5 6 の内側表面 3 2 2 との間に位置付けられ、湾曲フレーム 2 8 0 を接合部 3 0 0 を中心に旋回させて、キャッチ 2 9 6 が歯群 2 8 2 との嵌合の中に付勢されるようにする。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 9 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 9 1】

使用時に、キャッチ 2 9 6 は歯群 2 8 2 との嵌合の中に付勢される。歯群 2 8 2 に対するキャッチ 2 9 6 の付勢嵌合は、レバー 2 2 が長手方向の軸線 5 8 に沿ってハウジング 2 0 に対して移動するのを防ぐ。しかしながら、既定量の力がトリガアーム 5 0 に印加されるとバネ 3 1 8 の付勢が克服され、上レバーアーム 4 8 が長手方向の軸線 5 8 に沿って移動し、キャッチ 2 9 6 が歯群 2 8 2 に沿って段階的に前進する。ユーザがトリガアーム 5 0 への力の印加を停止すると、バネ 3 1 8 は、キャッチ 2 9 6 を歯群 2 8 2 と嵌合させ、それによってレバー 2 2 の追加の移動を防ぐ。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 9 2

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 9 2 】

更に、キャッチ 2 9 6 は、レバー解放機構 5 6 のボタン 3 1 0 の上面 3 1 4 を押し下げることによって、歯から解放されてもよく、それによってバネ 3 1 8 の付勢を克服し、湾曲フレーム 2 8 0 を接合部 3 0 0 を中心に旋回させる。キャッチ 2 9 6 が歯 2 8 2 と嵌合しないとき、レバー 2 2 はハウジング 2 0 に対して移動することが許可される。力がレバー 2 2 に印加されない場合、レバー本体 2 6 2 と外側ケーシング 2 5 6 との間に位置付けられたバネ 2 7 0 は、レバー 2 2 を接合部 2 6 4 を中心に旋回させ、それによってトリガアーム 5 0 をグリップ 3 0 の外側表面 2 4 4 から離すと同時に、上レバーアーム 4 8 を長手方向の軸線 5 8 に沿って、チャンネル 4 2 の閉じた末端部 4 4 から離す。ユーザがボタン 3 1 0 を解放すると、バネ 3 1 8 は、湾曲フレーム 2 8 0 を接合部 3 0 0 を中心に旋回させて、キャッチ 2 9 6 が移動して歯 2 8 2 との嵌合に戻るようにする。